

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572110104		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームたしろ		
所在地	秋田県大館市岩瀬字上岩瀬上野35番地		
自己評価作成日	平成27年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター		
所在地	秋田市将軍野桂町5-5		
訪問調査日	平成28年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①家庭的な雰囲気の中で、可能な限りその有する能力に応じ自立した生活を営み、利用者の声が反映されるよう創意工夫し認知症ケアの充実を図る。②月1回の広報誌「かわら版」の発行・家族・ボランティア交流・保育園児との交流等を通じ、地域・家族に開かれた事業所を目指す。③「運営推進会議」の設置により、家族・地域・行政等が一体となり事業所の健全な運営を図る。④防災計画を基に、夜間体制の確保・消防避難訓練等を実施し、長慶荘本体と連携し利用者の安全確保に万全を尽くす。⑤病気等の早期発見、早期対応に努めて健康的な生活の継続を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との笑顔がホールいっぱいに広がり、和やかな雰囲気に包まれて心暖まるホームである。利用者が安心して生活できるように、介護職員は理念を共有し朝の申し送り会や毎月の職員会議で意見交換し質の高いサービスができるように日々研鑽を積んでいる。2ユニットの利用者がお茶の時間等には馴染みの方や友人と気軽に触れ合い交流ができて喜ばれている。また、隣接している保育園の園児の訪問が毎月あり、触れ合い交流等で利用者も明るく元気で笑顔も絶えない。春と秋には避難訓練があり特に秋は、夜間想定訓練で消防署、地域住民、全職員で利用者の安全確保に尽くしており、終了後は地域住民や利用者、利用者家族やボランティアの方々との交流を行うなど、地域に開かれた事業所を目指している。また、新人職員の異動に伴い全職員で行う反復動作訓練も随時行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○ 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域とのつながりを大切にして、笑顔でその人らしく、いきいきとした生活を送れるようにします。という理念を基に地域との交流や、その人らしさを尊重した支援ができるように努めている。	理念を基に、家庭的な雰囲気での人らしく生活できるよう、毎朝の申し送り会や毎月の職員会議等で介護職員が共有し、創意工夫して地域密着のサービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に協力して頂き、避難訓練を行い、その後タンポ会を開き交流したり、散歩に出掛けて交流している。隣接する保育園とも交流している。	町内会には加入していないが、近隣地域の住民や保育園児の訪問がある。また、毎月事業所行事や各団体との交流等が行われ、日常的に関わり交流を深めている。ボランティアでは大正琴の演奏や絵手紙書き、本の朗読、入浴補助等があり利用者との触れ合いがさらに深められている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や毎月地域の常会長さんへかわら版を届けて、ホームでの取り組みを伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果は、運営推進会議や職員会議で伝え、委員、職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、年6回開催されている。行政、地域包括支援センター保健師、自治会長、施設長、管理者、主任、地域住民が利用者やサービスの状況の報告等や意見を出し合い、そこでの意見等を毎月の職員会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係には毎月かわら版を届けている。また、入居申し込み待機者の人数を報告している。運営推進会議では市の担当者と情報を共有している。	市の担当職員とは、常に色々な相談をしたり、情報提供により連携を密にしている。また地域包括センターの保健師には感染症についてや、消毒の方法等新しい情報の指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員で持ち、また身体拘束しないケアに努めている。玄関のチャイム、離床センサー等を使用し事故が起きないように努めている。	身体拘束マニュアルに基づき介護職員の研修を行い、利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	在宅グループの学習会で学ぶ機会がある。職員同士で話し合い、虐待がないように努めている。言葉使いにも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在宅グループでの学習会で学ぶ機会があり、学習会に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議時に報告したり、研修報告書を見る事で、皆で理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所・退所時や料金等改正時は御家族に説明して同意を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	茶話会を行い、入居者からの意見を聞いたり、また、面会時には御家族からの意見を聞いたり、ケアプラン発行時には御家族から意見を聞くようにしている。また、運営推進会議でも御家族からの意見を聞いて運営に反映させている。	苦情受付箱を正面玄関にしているが、苦情はほとんど無い。家族や利用者から意見を聞いたり、また、運営推進会議等の意見を取り入れながら運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議は施設長・補佐とグループホーム職員で行い、意見を聞いて一緒に考える仕組みになっている。	月1回、運営に関する職員の意見、要望について施設長と補佐で介護職員の意見を聞く職員会議を行っており、随時運営に反映させている。また、年1回は長慶荘の施設長と介護職員の面談も行われており、意見や提案、なやみ等に付いての話合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職務遂行能力考課の自己評価を行い、その後施設長と面談をして職員が向上心を持って働ける環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や学習会に参加し、受講者は研修報告書をまとめ、職員皆で向上できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームと相談したり、また、研修に参加することで、サービスの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームに入居する前には、本人や御家族と面談し、入居しても安心して生活出来るように家で使い慣れた物を持って来て頂いたり、生活習慣をできるだけ継続するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や面会時、また家族交流会の時等、また、毎月御家族にホームでの様子等を報告して関係づくりを大切に一緒に支えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、習慣や伝統行事、行事食等は教えて頂きながら、また、一緒に作ったりして楽しく暮らせる関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは連絡(電話等)を取りあい、本人が安心してホームで生活出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所のつきあいのあった方など、家族以外の方の面会もできるよう、御家族と連絡を取り合いながら支援している。家族との外出も大切にしている。	利用者の友人や近所の方々との面会、外出等は、家族と連絡を取り合いながら地域との関係を継続できるよう支援している。また、ユニット間の利用者同志の交流もあり良い関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席は気のある者同士にしたり、ラジオ体操や風船バレーは皆で一緒に行ったり、職員が中に入り、入居者同士が関わり合いを持って楽しく生活出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設(長慶荘)に移ったときは行事等で行ったときは話しをしたり、また、長期入院になった時は御家族から相談を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に日常の会話の中で希望や意向を把握するよう努めている。また、月1回茶話会として入居者の思いを話し合える時間を設けている。	利用者の入所時の聞き取りや、日常会話の中からの希望や意向を把握している、週間サービス計画書に基づき意向の把握に努めている。また、意思疎通の困難な方には介護職員が優しく声かけしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活様式や趣味等聞いて、入居しても継続出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康状態の観察に努め、また、本人の思いや生活リズムを大切に生活を送れる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、職員同士で話し合い、また御家族にはケアプラン発行時に意見を聞いてケアの充実を図っている。	利用者、家族、主治医、協力医療機関等との意見を取り入れ、毎月の職員会議で介護計画を作成している。また、6か月ごとにモニタリングの見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は日誌に入力し、また申し送りで話し合い、月の最後にはその人の状態をケース記録に入力し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へ散歩に出掛けたり、避難訓練時には協力して頂き、地域交流会を開いて交流している。田代中学校祭には外出している。隣の保育園とも交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康診断を行い、異常の早期発見に努めている。入居する前からのかかりつけ医を継続したり、本人、御家族と相談して病院を決めて受診している。	受診や通院は本人家族の希望により、介護職員の付き添いで対応している。また、かかりつけ医は西大館病院と田代診療所の協力を得ている。薬剤師等による服薬支援等の連携体制もとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護師)に相談したり、施設長、補佐、長慶荘の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院看護師や医師、また必要時には相談室の方と相談して、退院後も安心して生活出来るよう関係作りを築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、御家族の思いを大切にしながら、病院・法人内他施設(特養等)との連携を図り支援している。	看取り介護に関する指針(バックアップ施設特別護老人ホーム長慶荘)に基づき、重度化や看取り介護に関する方針の対応を職員が理解し共有している。今迄看取りのケースは無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内学習会やマニュアルに添って対応している。報告会で実践する事でスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行い、消防署の指導も受けている。また、地域の方にも、年に1回訓練に参加して頂き、協力体制を築いている。	年2回、春と秋に避難訓練を行っている。春は全職員で行い、10月には消防署、地域住民参加と全職員で夜間時災害想定訓練を行っている。また、新人職員の異動があった時には随時、全職員で反復動作訓練が行われ災害の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意し合いながら、入居者の人格を尊重した言葉かけをするように努めている。	利用者の身だしなみは清潔に保たれ、一人ひとりの人格を尊重し笑顔で優しい言葉かけに配慮している。また、個人ファイルは事務室に保管し、職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物や衣服、余暇時間等、本人の意志を確認して自己決定できる声掛けの仕方等工夫し支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いを大切にその人らしく生活出来るように努めている。が、寝ている事が多くなりがちな為、昼夜逆転にならないように、昼間好きな事をして頂き楽しく生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出するときは本人の好みを聞きながらおしゃれをして出掛けるよう、また、夏祭りの時は浴衣を着て、化粧して楽しく外出出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその人の好みのメニューにしたり、旬な山菜や郷土料理(だまっこ、たんぼ)と一緒に作って食べたり片づけたりしている。	郷土料理や季節の山菜、野菜等、利用者の嗜好をとりいれて、楽しい食事が出来るように工夫している。また、利用者は食事の準備や後片付けも積極的に職員と一緒に楽しみながらしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量や水分量を記録して、摂取量が少ないときは栄養補助食品や好みの物を食べて頂き栄養補給に努めている。咽せやすい人にはトロミをつけて、義歯のない人にはお粥と刻み食を食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄やうがい等、声掛け誘導して行っている。就寝前には義歯洗浄剤につけて清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、時間で声掛け、誘導してトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、利用者に優しく声かけしながら自立に向けた支援をしている。尿取りパットや紙パンツで対応している。また、夜間自立できない方にはポータブルトイレの使用の場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、牛乳や豆乳等、その人にあった飲料に変えたり、運動したり、また、医師に相談して下剤を服用している人もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は入浴日を決めている。希望があれば別ユニットで入浴もできる。	入浴はバイタルチェック表により、利用者の健康状態に合わせて週3回行われている。入浴介助は介護職員3人で対応している。入浴剤やゆず等を入れて入浴を楽しんでいる。また入浴を拒む方は時間をずらしたりタイミングを見て個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣にあった過ごし方をホームでもできる様に支援している。その方のペースに合わせ、自室やホールのソファで休息している。天気の良い日には布団を干して、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬ファイルを活用して、薬の作用、副作用等を理解するよう努めている。また、飲み忘れや誤薬がないよう服薬チェック表で確認している。状態変化時は早めに通院している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活や子供の頃の話聞いて、その人にあった楽しみごと(裁縫、豆の選別、畑仕事等)を行い、気分転換出来る様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人からの希望があれば出来るだけ対応して、買い物にいたり、自宅へ戻ったり、散歩に出掛けたりしている。今年度は御家族の協力を得て「五能線の旅」として外出した。	利用者の希望を聞いて買い物をしたり、自宅へ戻ったり、散歩したり家族の協力を得ている。また、今年度始めて利用者と家族からの希望があり普段行けないような場所に、家族や地域の方、介護職員の協力により「五能線の旅」が行われ、好評を博している。	今後も利用者や家族の希望にそって、よりよい外出支援の企画をされることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫に保管しているが、小銭を持ったり、また、自分で管理している人もいる。希望があれば、いつでも使えるように、外出時は自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月かわら版と一緒に本人の様子を御家族に知らせている。年賀状や暑中見舞いはがきを作成し発送している。希望があれば電話したり、手紙の返事を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関に季節の花を飾ったり、ホールの壁には季節を感じて頂けるように毎月飾り付けをしている。居室やトイレ等24時間換気をして清潔に努めている。	ホーム全体に光が入り、明るく、暖かく、快適で居心地良く過ごせる。ホールには季節感を取り入れた飾り付けや、書初めの習字等が貼られている。トイレやお風呂場等は清潔に保たれ整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールや廊下にソファを置いて、自由にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた食器やタンス、布団等は持ってきて頂き、入居しても自宅にいるのと同じように環境をあまり変えず、落ち着いて過ごして頂けるようにしている。	居室は利用者の意向を取り入れ、明るく清潔に保たれ整理整頓している。また使い慣れた家具やタンス等で自宅で居る時と同じように居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を自分で干せるよう、自室に物干し台を置いたり、タンスの整理ができるようにネームをつけたりして、出来る事はして頂いたり、また一緒に行うようにしている。		